



七十人

マッシモ・デ・  
フェオ長老

# 両親から 学んだ教え



に、わたしたちはバプテスマとかくにんを受けました。わたしが10才、兄が11才のときでした。

わたしは18才になると、伝道のための費用を出すのを助けてほしいと父にたのみました。最初は、「無理だ。そんな金額ははらえない」と父は言いました。でも、数日後、こう聞いてきました。「ほんとうに伝道に行きたいのかい。」わたしは

「はい。どうしても行きたいと思っています」と言いました。父は、助けると言ってくれました。

わたしは、父がなぜわたしのためにそのような多額のお金をはらってくれるのか分かりませんでした。そのとき、父がわたしを愛しているからだということに気づきました。わたしは、イエス・キリストがわたしたちのためにはらってくださったがせいを思い出しました。イエスはわたしたちを愛しておられるので、最も高い代価をはらってくださったのです。

わたしが伝道から帰ると、母はがんにかかっている、とても体調を悪くしていました。ある日、母はわたしにいのり方を教えてほしいと言いました。母はわたしのためにいのろうとしたのです。苦しみがあっても、母はほかの人のことを考えていました。母もまた、イエスのことをわたしに思い出させてくれました。イエスはわたしたちをあがなってくださいました。イエスはわたしたちをあがなしてくださいました。それでも、わたしたちのためにいのってくださいました。

両親はこの世で教会に入ることはありませんでしたが、わたしの良いもはんでした。わたしは、両親から学んだ教訓に感謝しています。わたしたちは、両親や教師や指導者の教えに心を聞くときに、かれらからたくさん学ぶことができます。●

わたしは、南イタリアの小さな町で育ちました。家族は、教会員ではありませんでした。9才だったある日、二人の宣教師が家のドアをたたきました。

両親は宣教師の話に興味がありませんでしたが、わたしは興味を持ちました。兄のアルベルトもそうでした。両親は、わたしたちが宣教師と会うのをゆるしてくれました。後